

〔第166回明専塾（地方公務員）〕

地域に密着した仕事

工学部建設社会工学科4年 橋本 将直



平成30年12月14日、戸畑キャンパスにおいて第166回明専塾が開催されました。講演内容は地方公務員の仕事に関するもので、喜洲淳哉氏、金子慎吾氏、山口秀和氏、森迫英夫氏、吉武範幸氏の計5名の方々に講演をしていただきました。

地方公務員（建設系）の主な仕事は工事の大元となる計画を立案し、民間企業に工事を発注することです。その他に、道路の施工や維持管理など現場での作業もあります。今回の講演では、区画整理事業や下水道の維持管理、市営住宅問題などが取り上げられ、非常に幅が広く、私たちの生活に密着した仕事であると感じ

ました。

今回の講演を聞いて、講演者の方々に共通する思いは、市民の生活を豊かにすることであると感じました。講演者の方の一人が「より良い街づくりを実現するためには自分たちが一方的に提供するのではなく、市民の方たちと一緒に作り上げていく必要がある」というお話をされていました。一例として折尾駅の駅舎を新築する際に、市民の声を参考にして新舎に旧舎のデザインを取り入れた事例が挙げられました。折尾駅の駅舎は長い歴史をもち、市民の方からすると愛着のある駅舎を取り壊されたくはないはずです。私の地元の駅も数年前に新築されました。利便性の向上のため新築されることは仕方がないことですが、旧舎の面影がない新舎を見て寂しかった経験があります。利便性の向上を求めた結果、古くからある地域の良さがなくなることは寂しいことだと思いま

す。その意味で、市民の方と共に街づくりができ、一緒に喜びを分かち合えるこの仕事はとてもやりがいのあると感じました。一方、この仕事では市民の方とのコミュニケーションが不可欠なので、コミュニケーション能力の大切さを痛感しました。このように講演者の方が公の機関として市民が豊かに生活できるように仕事をされていることを知ることができ、将来、就職活動を控える私にとつて貴重な時間となりました。

百周年中村記念館で行われた懇親会では、ご講演いただいた方々を含め、ゼネコンや建設コンサルタントなどの建設業界に関わる先輩方が20名ほど出席されました。立食形式でお酒や食事が振舞われ、非常に和やかな雰囲気の中、各企業の仕事内容や就職活動について、たくさんのお話を聞くことができました。そこで私は「大学で学ぶ基礎的なことは社会に出てからも使うから、おろそかにしてはいけない」というお話を聞きました。水理、構造、土質といった基礎的な学問が分かっていると間違った設計をしてみようという、市民に危険が及ぶ可能性もあり

ます。お話された方は職場の机の引き出しに大学の教科書を入れており、確認するとのことでした。正直なところ、大学での勉強は社会に出るとほとんど使わないだろうと思っていました。この話を聞いて、きちんと理解して勉強しようと思いが引き締まる思いです。

最後になりましたが、ご多忙の中私たち学生に講演していただいた方々、懇親会に集まっていたいただいた先輩方、また、このような貴重な機会を提供して下さった明専会や教職員の皆様に心より感謝申し上げます。

（平成31年1月記）



懇談会の様子